



次代を開く

建設コンサルタント

防災・減災関連の業務量が引き続き堅調に推移すると見られる。新型コロナウイルスの感染拡大が影響し民間市場は十分に回復していない。受注機会の拡大に向けた取り組みを

オリエンタルコンサルタンツHD

野崎 秀則社長

垂直統合型サービス提供

一層強化する。2025年9月期までを対象とする長期経営ビジョンの業績目標を上方修正した。連結ベースで売上高800億円（22年9月期予想は700億円）、営業利益40億円（34億円）に設定した。現行計画に掲げる目標を前倒してクリアした。

26年9月期から5カ年の次期経営ビジョンがスタートする。キーワードを「革新」

「挑戦」「変革」に設定する。人材への投資に加え、DX（デジタルトランスフォーメーション）を加速するなど成長に向けた活動のギアを一段と上げていく。

国内は構造物単体の設計・施工監理だけでなく、維持管理といった業務全般を当社が担う「垂直統合」型のサービスを提供する。ニーズの高いエリアマネジメントにも事業領域を広げ、収益基盤の多角化を図る。エリア内のエネルギーを最適管理し、脱炭素社会の実現に貢献する。コンセッション（公共施設等運営権）事業として参画する南紀白浜空港（和歌山県白浜町）周辺で、地産地消型の電力供給事業を展開したい。

新型コロナウイルスで渡航制限を受けた海外で業務受注を伸ばすため、海外現地子会社の人材育成に注力する。パートナー企業との連携も一層強化して得意領域を伸ばす。